

世界平和の実現のために

長崎県立佐世保北高等学校

中原葉

私は部員七十名ほどの中高一貫校の吹奏楽部に所属しています。今年、高校二年生になり、夏には三年生が引退して最高学年となりました。

先日、最近部活を休む人ややめることを検討する人が多いので部の組織を見直すために自分の思っていることや感じていることなどを話し合いました。全員ではないものの多くの人が自分の考えを話してくれました。中には経験に基づいて自分の思う部活のあり方を語ってくれた人もいました。そうやってみんなの話を聞いて私が思ったことは、本当に、それぞれが違う考え方をしているのだということでした。

部員が話してくれたことの多くは共感できるものでしたが、中には自分の考えと正反対のものもありました。また、いろいろな体験を聞くことでそれぞれがその日、そこに来るまでに何をしてきたかも全く違うということがわかりました。そんな部員たち七十人全員が納得して、楽しんで取り組める部活をつくっていくことは生易しいことではありません。

私は、「平和な世界をつくる」ということはそれと似ていることであると思えます。

世界にはこの部員数の一億倍である七十億人もの人がいます。「平和な世

界をつくる」ということはその全員の気持ち、考えを尊重して全員が住み良い、生きることが楽しい、と思える世界をつくることではないでしょうか。たった七十人でも大変なのに、その一億倍の規模で同じことをするとなると計り知れないほどの努力が必要になると思います。では、どうすれば「平和な世界をつくる」ことができるのでしょうか。

私は一人ひとりが意識して行動することで世界を変えられると信じています。

例えば、資源には限りがあるので水の使用量はできるだけ減らしたい。日本国民一億二千万人が毎日シャワーを浴びるとして、各々が毎日一分だけ使用時間を短くするとすると、五千億リットルもの水を節約できることになります。一人ひとりがする、毎日一分だけシャワーの利用を節約するという行動は、意識があれば誰にでもできる簡単なことだと思いますが、それがこんなに大きな結果を生み出せる。

そして、「平和な世界をつくる」ために一人ひとりができる簡単なことは「知る」こと。世界に目を向けて、今でも飢餓や貧困で苦しんでいる人がいること。今でも各地で暴力的な衝突がおきていて、それによって亡くなる人がいること。生き延びられても大きな後遺症に苦しみながらなんとか生活している人がいること。日本もつい七十五年前まで戦争をしていてそ

のために亡くなったたくさんの方がいること。大切な人を亡くしたり、七十五年経っても話すことができないほどつらい経験をした方がいること。そういったことを知って、今自分の置かれている状況がどんなに幸せなのか、今の日本の平和がたくさんの方の努力によって得られたものだということを自覚し、感謝する。

すべてはそこから始まると思います。それができたら自分から世界に働きかけられることは何か考え、実行する。一人ひとりの力は微かなものでも、それが集まれば世界をも動かせる強大なものになると思います。さあ、まずは指一本から。